

(品目別需給編)

1 小麦

(1)国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2019/20 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・豪州等で下方修正も、インド、アルゼンチン等で上方修正され、前月から上方修正された。依然として、史上最高の見込み。

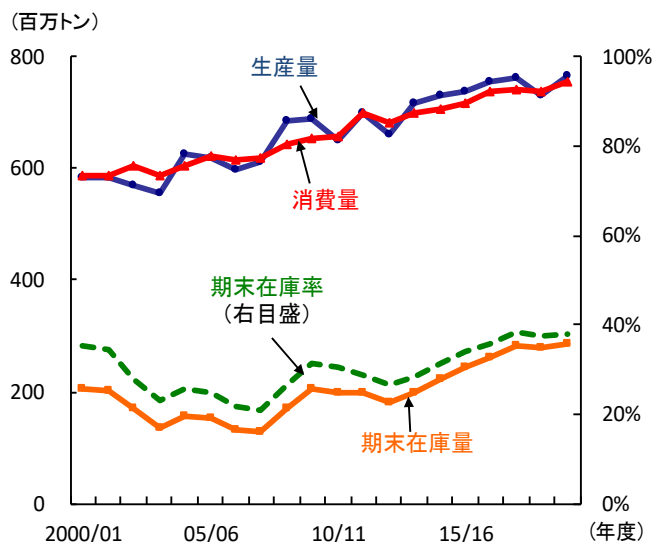
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・EU 等で下方修正も、カナダ等で上方修正され、前月から上方修正された。依然として、史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・カナダ、豪州等で下方修正も、ロシア等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2020.3.10)をもとに農林水産省で作成

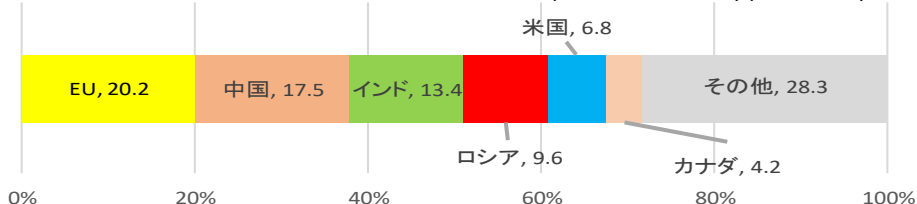
◎世界の小麦需給

(単位：百万トン)

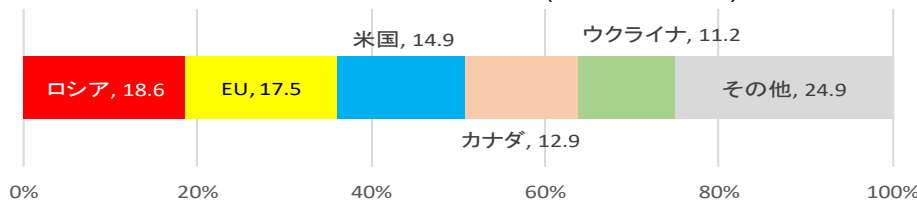
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	762.9	731.5	764.5	0.5	4.5
消費量	742.1	737.4	754.9	0.7	2.4
うち飼料用	146.5	139.9	147.9	▲ 0.1	5.8
輸出量	182.5	173.5	183.6	0.8	5.8
輸入量	180.9	170.4	180.8	0.7	6.1
期末在庫量	283.5	277.6	287.1	▲ 0.9	3.4
期末在庫率	38.2%	37.6%	38.0%	▲ 0.2	0.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (10 March 2020)

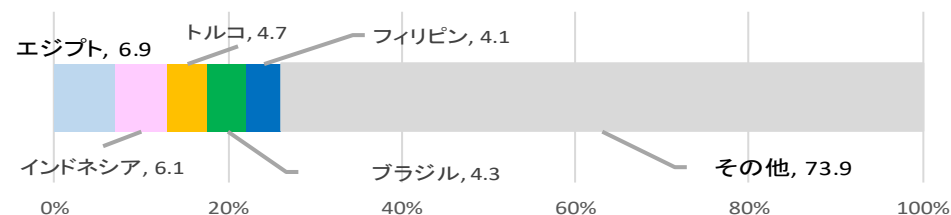
○ 2019/20年度の世界の小麦の生産量(764.5百万トン)(単位：%)



○ 2019/20年度の世界の小麦の輸出量(183.6百万トン)



○ 2019/20年度の世界の小麦の輸入量(180.8百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2019/20年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、冬小麦 35.5 百万トン(対前年度比 10.1%増)、春小麦 15.3 百万トン(同 9.8%減)、デュラム小麦 1.5 百万トン(同 31.1%減)の 52.3 百万トン。

また、2020/21年度の冬小麦の作付面積は、1909年以來、過去 110年間で最低の 12.5 百万ヘクタールの見込み。作柄は、カンザス州で良～やや良が 47ポイント(3月9日時点、前週 43ポイント)、オクラホマ州では 58ポイント(3月8日時点 57ポイント)である。米国冬小麦の主産地であるカンザス州では、2月23日からの1週間に降雨があり、同州南西部で続いていた乾燥が一部地域を除いて和らいだ。

北部平原の春小麦は、引き続いている土壌水分過多の影響や他の作物に比べ収益性が低いため、作付け遅延や作付面積の減少の可能性がある。

【貿易情報・その他】2019/20年度の輸出量は、2016/17年度以來最高の 27.2 百万トンとなる見込み。また、2月末の米国の輸出価格は、ロシア、EU等の主要輸出国の輸出価格低下の影響を受け1月末に比べ低下した。

なお、2月に米国で実施されたアウトロックフォーラムによれば 2020/21年度の輸出量は、2019/20年度と同程度の 27.0 百万トンの見込み。

米国の小麦輸出先国別輸出量(輸出検証高)(万トン)

	国名	輸出検証高		
		2020年累計	シェア(%)	2020年2月
1	メキシコ	62.8	14.3	33.8
2	フィリピン	60.3	13.7	28.0
3	日本	51.9	11.8	23.7
4	タイ	22.7	5.2	17.4
5	韓国	28.3	6.5	14.8
6	その他	212.8	48.5	45.7
	計	438.8	100.0	163.4

注1:2月の輸出検証高は、2月13、20、27及び3月5日の合計。

注2:累積輸出検証高は、2020年1月2日～3月6日の合計。

資料:USDA Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totalsより作成。

小麦—米国

(冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	47.4	51.3	52.3	-	1.9
消費量	29.3	30.0	31.7	-	5.6
うち飼料用	1.3	2.4	4.1	-	67.2
輸 出 量	24.7	25.5	27.2	-	6.8
輸 入 量	4.3	3.7	2.9	-	▲ 22.1
期末在庫量	29.9	29.4	25.6	-	▲ 13.0
期末在庫率	55.5%	53.0%	43.4%	-	▲ 9.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	15.20	16.03	15.04	-	▲ 6.2
単収(t/ha)	3.12	3.20	3.47	-	8.4

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(10 March 2020)

(ドル/トン) 図 米国産小麦の品種別輸出価格の推移



資料:USDA「Grain: World Markets and Trade」(2020.3.10)

< カナダ >

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)3月報告(2020.3.19)によれば、2019/20年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、デュラム小麦が5.0百万トン、普通小麦が27.3百万トンの32.3百万トンの見込み。

2020年1月末までの分析結果によれば、デュラム小麦の49%及び普通小麦のウェスタンレッドスプリング(WRS)の72%が1等及び2等に格付けされた。また、タンパク含有量の平均はデュラム小麦が13.7%と2018/19年度より低いものの、最近の5年平均は上回り、WRSが13.3%と前年度及び5年平均を下回った。

2020/21年度の実産量予測は、前年度より4.8%増加して33.9百万トンの見込み。内訳は、デュラム小麦が期首在庫量が少ないことや比較的価格が高いこと等から作付面積が増加し、2019/20年度より15%増加し5.9百万トン。普通小麦は世界的に生産量が増加し輸出国との競合が予想されること等から作付面積がほぼ前年度並みとなり、2019/20年度より2%の増加の28.0百万トンの見込み。

なお、普通小麦の実産量予測のうち、冬小麦は作付面積の増加等から前年度に比べ60%増加し2.7百万トン、春小麦は1%減少して25.3百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出ペースが予想より低下していることから、2019/20年度の輸出量は前月より0.5百万トン下方修正され、23.0百万トンの見込み。輸出価格は2月末に低下したものの、依然として相対的に高水準である。

また、2月にガスパイプライン建設をめぐる抗議により、一部地域で道路や鉄道が封鎖され、穀物輸送に遅延や滞貨が生じた。現在、鉄道封鎖は解除されているものの、カナダ政府の公表によると、2月16日の週のカナダ全港からの小麦週間輸出量は5年平均を28%下回った。

AAFCによれば、2020/21年度の実産量予測は、2019/20年度(23.0百万トン)より4%増加し24.0百万トンの見込み。内訳は、デュラム小麦が前年度並の4.8百万トン、普通小麦は前年度に比べ5%増加し、19.2百万トンの見込み。

小麦－カナダ

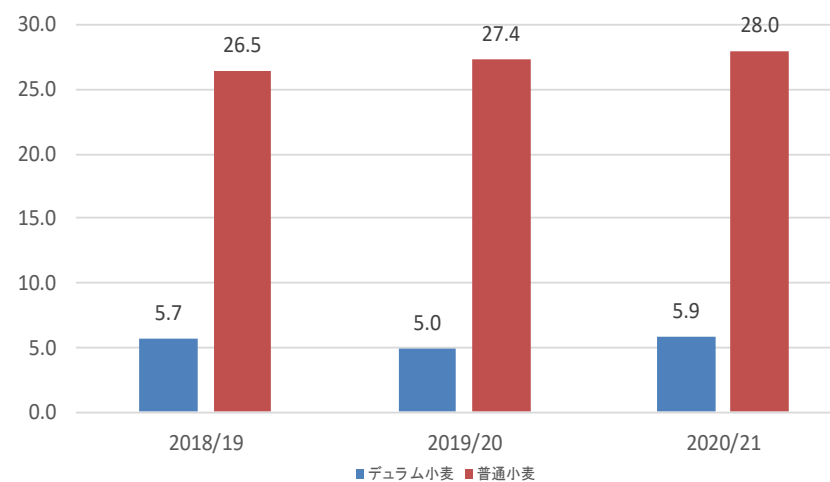
(春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	30.4	32.2	32.4 (32.3)	-	0.5	
消費量	9.0	9.0	9.9 (5.0)	0.2	10.4	
うち飼料用	4.1	4.0	4.9 (3.6)	0.2	23.1	
輸 出 量	22.0	24.4	23.0 (23.0)	▲ 0.5	▲ 5.7	
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.2)	0.1	4.2	
期末在庫量	6.7	6.0	6.0 (5.9)	0.4	▲ 0.8	
期末在庫率	21.7%	18.1%	18.2% (21.0%)	1.2	0.1	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	8.98	9.88	9.66 (9.61)	-	▲ 2.2	
単収(t/ha)	3.38	3.26	3.35 (3.36)	-	2.8	

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 March 2020)
AAFC「Outlook For Principal Field Crops」(19 March 2020)

(百万トン) 小麦生産量の推移(2018/19～2020/21年度)



資料:AAFC「Outlook For Principal Field Crops」(19 March 2020)をもとに農林水産省で作成

<豪州>

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量予測は、前月から0.4百万トン下方修正され、干ばつの影響のあった前年度(17.3百万トン)をさらに下回る15.2百万トンと2007/08年度以来12年ぶりの低水準となる見込み。

輸出量も前月予測より0.2百万トン下方修正され8.0百万トンとなる見込み。輸出価格は2月末に低下したものの、主要国に比べ依然として高い。

豪州農業資源経済科学局(ABARES) (2020.3.3)によれば、2020/21年度の実産量予測は、21.4百万トンと2019/20年度に比べ40.8%増加する見込み。2月に主要生産地である東部のニューサウスウェールズ州を含む一部の地域でかなりの降雨があり、5月から6月に始まる2020/21年度の作付けにとって好条件となった。また、オーストラリア気象庁によれば、2020年4月～6月にかけて、小麦生産地である豪州西部及び南部の一部地域で、例年よりも雨量が多くなる可能性がある。

< EU > (英国を含む)

【生育・生産状況】EU委員会によれば、普通小麦が147.2百万トン、デュラム小麦が7.7百万トンの154.9百万トンの見込み。

EU地域は、全体的に1月中旬から2月上旬にかけて例年より気温が高く、北部は降水量が多かった。EU委員会によれば、2020/21年度の冬小麦はこの暖冬の影響で例年より早く休眠期が終了したものの、北部は生長再開後の追肥等の作業が長雨の影響で遅れている。

【貿易情報・その他】EU委員会によれば、2019年12月の小麦の輸出量は11月(2.5百万トン)に比べ24.6%増加の3.2百万トンであった。同月の輸出国割合は、普通小麦はフランス40.2%、ルーマニア10.3%、ドイツ9.0%、デュラム小麦はスペイン40.2%、フランス34.2%、ギリシャ20.8%である。

なお、輸出先国は普通小麦が、アルジェリア17.8%、中国7.8%、トルコ7.3%、デュラム小麦がトルコ43.6%、チュニジア28.6%、モロッコ10.2%である。

小麦－豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.9	17.3	15.2 (15.2)	▲ 0.4	▲ 12.1
消費量	7.5	9.2	8.7 (8.4)	-	▲ 5.4
うち飼料用	4.0	5.7	5.2 (5.0)	-	▲ 8.8
輸 出 量	13.9	9.0	8.0 (8.3)	▲ 0.2	▲ 11.2
輸 入 量	0.2	0.4	0.6 (0.7)	-	52.8
期末在庫量	5.5	5.0	4.0 (4.0)	▲ 0.2	▲ 19.2
期末在庫率	25.8%	27.2%	24.0% (23.9%)	▲ 0.9	▲ 3.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)※	10.92	10.16	10.10 (23.73)	-	▲ 0.6
単収(t/ha)	1.92	1.70	1.50 (5.63)	▲ 0.04	▲ 11.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 March 2020)
IGC 「Grain Market Report」(27 February 2020)

小麦－EU

(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はEU	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	151.1	136.9	154.0 (154.9)	-	12.5
消費量	130.4	123.2	126.5 (126.5)	▲ 0.5	2.7
うち飼料用	58.0	52.0	55.0 (52.4)	▲ 0.5	5.8
輸 出 量	23.4	23.3	32.0 (29.1)	-	37.3
輸 入 量	5.8	5.8	4.8 (4.4)	▲ 0.5	▲ 16.7
期末在庫量	13.9	10.0	10.3 (17.9)	-	3.0
期末在庫率	9.0%	6.8%	6.5% (11.5%)	0.0	▲ 0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	26.16	25.58	26.07 (25.97)	-	1.9
単収(t/ha)	5.78	5.35	5.91 (5.96)	-	10.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
USDA 「PS&D」(10 March 2020)
EU 「Balance Sheets For Cereals and Oilseeds and Rice」(27 February 2020)

< 中国 >

【生育・生産状況】中国糧油情報センターによれば、2019/20 年度の小麦の生産量予測は、前月からの変更はなく、133.6 百万トンの見込み。

2020/21 年度の冬小麦は、平年を上回る気温や日照時間に恵まれ、河南省、山東省の一部では活着が例年より 3～10 日早まった。

中国中央气象台によれば、2020/21 年度の冬小麦は、河南省、山東省、江蘇省等では多くが越冬期から活着期に入り、一部は節間伸長期から穂孕み期に入っている。甘肅省、陝西省等では越冬期から茎立ち期、四川省、雲南省では節間伸長期から開花期に入っている。

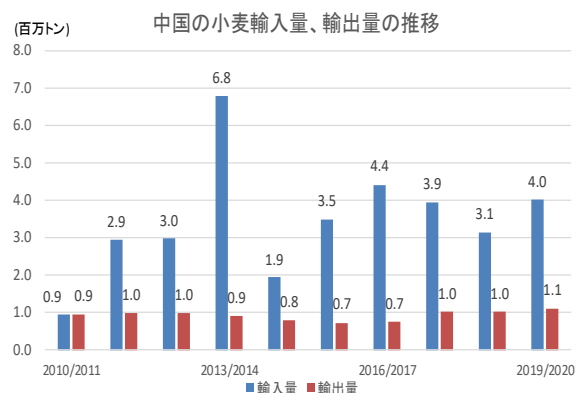
また、全国の冬小麦の一、二類(※)の比率はそれぞれ 24 ポイント、75 ポイントと、前月に比べ一類の比率が 3 ポイント上昇し、二類苗の比率は 2 ポイント減少した。

2020/21 年度の春小麦は、甘肅省、内モンゴル自治区で播種期に入っている。

【貿易情報・その他】中国農産品供需形勢分析月報(2月)によれば、中国国内の 1 月の小麦価格は、中央政府の備蓄小麦が大量に市場に放出され小麦供給が十分であったため、価格は安定していたが、2 月に入り新型肺炎による物流への影響や労働力不足から、一部地域では供給が不足し、やや上昇。

2020 年 1 月、2 月計の小麦輸入量は、前年同期から 10.7%減少し約 62 万トンであった。

輸入先国のシェアは、2019 年度はカナダが 73.7%を占めていたが、2020 年は価格競争力のあるフランスが 46.9%と半分近くを占めた。以下は、豪州 26.7%、カザフスタン 11.0%。



資料：USDA「PS&D」(2020, 3, 10)のデータを農林水産省で加工。

小麦—中国(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	134.3	131.4	133.6 (133.6)	-	1.6
消費量	121.0	125.0	128.0 (129.4)	-	2.4
うち飼料用	17.5	20.0	21.0 (21.0)	-	5.0
輸出入量	1.0	1.0	1.1 (1.2)	-	8.9
輸入量	3.9	3.2	4.0 (4.1)	-	27.0
期末在庫量	131.2	139.8	148.3 (128.5)	-	6.1
期末在庫率	107.5%	110.9%	114.8% (98.4%)	-	3.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.51	24.27	23.73 (23.73)	-	▲ 2.2
単収(t/ha)	5.48	5.42	5.63 (5.63)	-	3.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 March 2020)
IGC 「Grain Market Report」(27 February 2020)

※ 一類苗：生育が正常な苗 二類苗：通常の苗よりやや小さい苗

三類苗：病気の苗、弱い苗

中国の小麦輸入先国別輸入量及びシェア

順位	国名	輸入量(トン)			
		2020年1、2月	シェア(%)	2019年1、2月	シェア(%)
1	フランス	290,564	46.9	130,563	18.8
2	豪州	165,559	26.7	4,890	0.7
3	カザフスタン	68,419	11.0	39,968	5.8
4	リトアニア	64,897	10.5	0	0.0
5	カナダ	20,367	3.3	511,453	73.7
6	ロシア	10,067	1.6	7,361	1.1
7	米国	0	0.0	0	0.0
8	その他	0	0.0	0	0.0
	合計	619,873	100.0	694,236	100.0

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成。

< ロシア >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は前月予測から0.1百万トン上方修正され、73.6百万トンの見込み。生産量の内訳は、冬小麦は収穫面積が増加したものの単収低下で前月から2.0百万トン下方修正され、52.5百万トン。春小麦は単収の上昇から前月から2.1百万トン上方修正され21.1百万トン。

ロシア気象センターによれば、2月は全国的に温暖で、作柄は全体的に良好であった。管区別には、北西、中央、沿ボルガ連邦管区では、一部で凍結が緩んで土壌の水分過多や氷層の形成などの懸念があるものの、作柄評価は良好～並が95%から97%、南、北カフカス連邦管区の北部地域は、2月末までスノーカバーに覆われたため気温低下の影響はなく、作柄評価は良好～並が98%から100%、また、ウラル連邦管区、シベリア連邦管区西部では一部で土壌の凍結深度が浅いため根腐れの懸念があり、作柄評価は良好～並が89%から94%である。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、主要輸入国のトルコの継続する強い需要に支えられ、前月予測に比べ1.0百万トン上方修正の35.0百万トンの見込み。黒海諸国の小麦輸出価格(製粉用)は、2020/21年度の小麦の良好な生育状況により3月以降は低下傾向にあり、EU及び米国に対して価格競争力を増している。小麦消費量が増加している中東やアフリカの発展途上国では、相対的に安価なロシア産を需要し、バングラデシュやインドネシアのアジア諸国も同様にロシア産を求め始めている。

ロシア税関によれば、2020年1月の輸出先国は、エジプト32%、トルコ24%、バングラデシュ10%となっている。また、2019/20年度の累計の輸出先国の比率は、トルコ23%、エジプト20%、バングラデシュ9%である。

ロシア農業省によれば、ルーブルの下落により小麦輸出が加速すると予測されているが、小麦輸出について穀物の輸出枠の検討がされている模様。今のところ、国内価格は大幅に上昇することはないと見られている。

小麦－ロシア

(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	85.2	71.7	73.6 (73.5)	0.1	2.7	
消費量	43.0	40.5	39.5 (40.3)	-	▲ 2.5	
うち飼料用	20.0	18.0	17.0 (17.0)	-	▲ 5.6	
輸 出 量	41.4	35.8	35.0 (34.1)	1.0	▲ 2.3	
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.3)	-	6.7	
期末在庫量	12.0	7.8	7.4 (9.4)	▲ 0.9	▲ 5.4	
期末在庫率	14.2%	10.2%	9.9% (12.6%)	▲ 1.3	▲ 0.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	27.37	26.34	27.31 (27.20)	0.11	3.7	
単収(t/ha)	3.11	2.72	2.70 (2.70)	-	▲ 0.7	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 March 2020)
IGC 「Grain Market Report」(27 February 2020)

ロシアの小麦輸出先国別シェア

	2020年1月		2019年7月～2020年1月	
	国名	輸出量シェア (%)	国名	輸出量シェア (%)
1	エジプト	32	トルコ	23
2	トルコ	24	エジプト	20
3	バングラデシュ	10	バングラデシュ	9
4	スーダン	6	アゼルバイジャン	5
5	オマーン	3	スーダン	4
6	その他	25	その他	39
		100%		100%

資料：ロシア税関資料をもとに農林水産省で作成。

2 とうもろこし

(1) 国際的な需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し> 2019/20 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・ロシア等で下方修正も、南アフリカ等で上方修正により、前月から上方修正された。

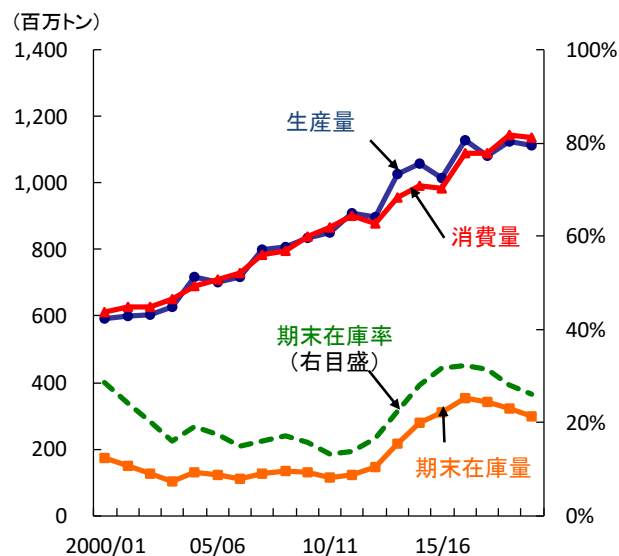
消費量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・ロシア、ブラジル等で上方修正により、前月から上方修正された。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・ロシア等で下方修正も、ウクライナ、南アフリカ等で上方修正により、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑



資料 : USDA 「PS&D」 (2020. 3. 10) をもとに農林水産省にて作成

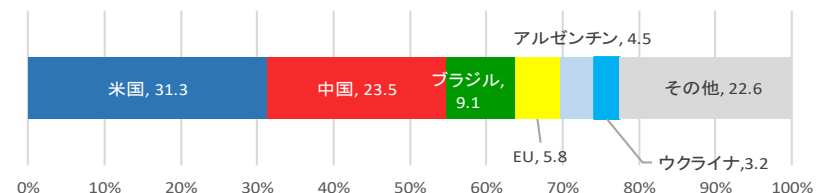
◎世界のとうもろこし需給

(単位:百万トン)

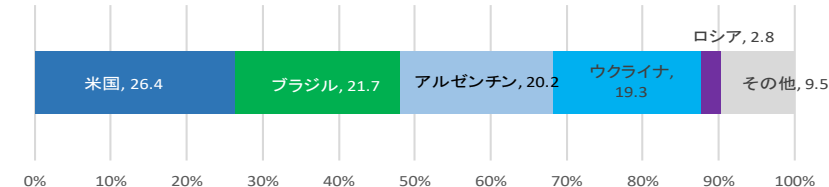
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	1,080.1	1,123.3	1,112.0	0.4	▲ 1.0
消費量	1,090.5	1,144.1	1,135.5	0.3	▲ 0.8
うち飼料用	672.4	702.5	705.8	0.9	0.5
輸出量	148.2	180.5	165.8	0.1	▲ 8.1
輸入量	149.9	163.0	168.6	0.6	3.5
期末在庫量	341.6	320.8	297.3	0.5	▲ 7.3
期末在庫率	31.3%	28.0%	26.2%	0.0	▲ 1.9

資料 : USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (10 March 2020)

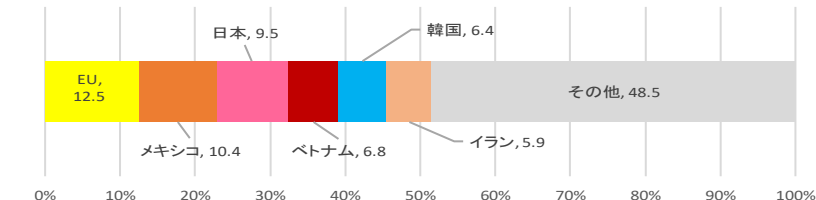
○ 2019/20 年度 世界のとうもろこしの生産量 (1,112.0 百万トン) (単位: %)



○ 2019/20 年度 世界のとうもろこしの輸出量 (165.8 百万トン)



○ 2019/20 年度 世界のとうもろこしの輸入量 (168.6 百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】前年3月から6月までの降雨過多の影響により、作付け、生育に遅れが生じた。中西部の北部では収穫されるべきとうもろこしの一部が圃場に残された状況。

生産量は、前月予測から変更はなく、前年度比4.5%減の347.8百万トンの見込み。

【需要動向】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、前月予測から変更はなく、前年度比1.0%増の313.6百万トン。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、前年度比16.5%減の43.8百万トンの見込み。なお、輸出検証高(2020年1月2日～2020年3月6日)は、6.4百万トン(右下表参照)。

直近の輸出価格は、低調な輸出ペースを反映して落ち着いた動きをしている。

とうもろこし-米国

(単位:百万トン)

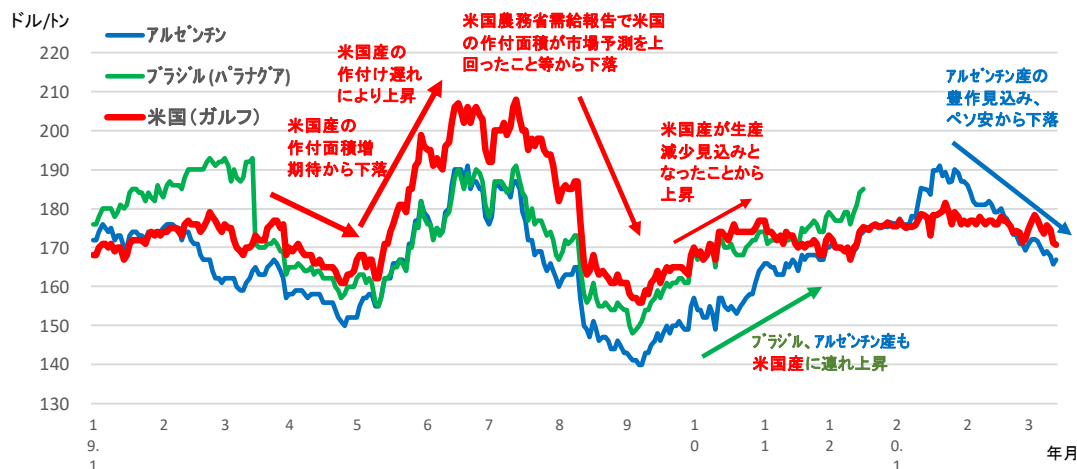
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	371.1	364.3	347.8	-	▲ 4.5
消費量	314.0	310.5	313.6	-	1.0
うち飼料用	134.7	137.9	140.3	-	1.7
エタノール用等	142.4	136.6	137.8	-	0.9
輸 出 量	61.9	52.5	43.8	-	▲ 16.5
輸 入 量	0.9	0.7	1.3	-	78.9
期末在庫量	54.4	56.4	48.1	-	▲ 14.8
期末在庫率	14.5%	15.5%	13.4%	-	▲ 2.1

(参考)

収穫面積(百万ha)	33.48	32.89	32.98	-	0.3
単収(t/ha)	11.08	11.07	10.55	-	▲ 4.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 March 2020)

図: 米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格 (FOB) の推移



資料: IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

表: 米国のとうもろこし輸出先国別輸出量 (輸出検証高) (万トン)

	国名	輸出検証高	
		2020年累計	2020年2月
1	メキシコ	230.6	116.9
2	日本	154.3	99.0
3	コロンビア	104.4	32.4
	その他	155.3	95.1
	計	644.6	343.4

注1: 2月の輸出検証高は、2月13、20、27日及び3月6日の計

注2: 累積輸出検証高は、2020年1月2日～3月6日の合計

出典: USDA Federal Grain Inspection Service

< ブラジル >

【生育・生産状況】夏とうもろこしは、前年12月以降、中部・南部主産地で生育期に降雨に恵まれ順調に生育し、南部のパラナ州、リオグランデドスル州等で収穫が進展。収穫進捗率は、パラナ州67%(3月16日)、リオグランデドスル州63%(3月19日)。

一方、大豆の収穫後に栽培される冬とうもろこしの作付けも開始され、中西部のマトグロソ州で降雨に恵まれ、土壌水分が補給され、作付けはほぼ終了。

USDAによれば、生産量は、前月予測から変更はなく101.0百万トンの見込み。

一方、ブラジル食料供給公社(Conab)月例報告(2020.3.10)によれば、収穫中の夏とうもろこしの生産量は、作付面積は増加したものの、南部のリオグランデドスル州の乾燥による単収の下方修正により、前年度並みの25.6百万トンの見込み。一方、大豆収穫後に作付けされる冬とうもろこしの生産量は、前年度並みの74.5百万トンが見込まれ、合計では100.1百万トンと前年度(100.0百万トン)をわずかに上回る見込み。

(P.17 大豆ーブラジルのクロップカレンダー参照)。

【需給状況】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、養鶏向け飼料用需要の増加により、前月予測から0.5百万トン上方修正され、67.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月予測から変更なく36.0百万トンが見込まれ、輸出シェアは世界第2位を維持。(図参照)。一方、輸入量は1.2百万トンの見通し。

ブラジル貿易統計によると、2020年1～2月の累計輸出量は2.5百万トンで、前年同期比53%減となっている。内訳は、1位が台湾49万トン、2位が日本41万トン、3位がイラン33万トンとなっている。

とうもろこしーブラジル

(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが7割を占め、夏とうもろこしは3割)

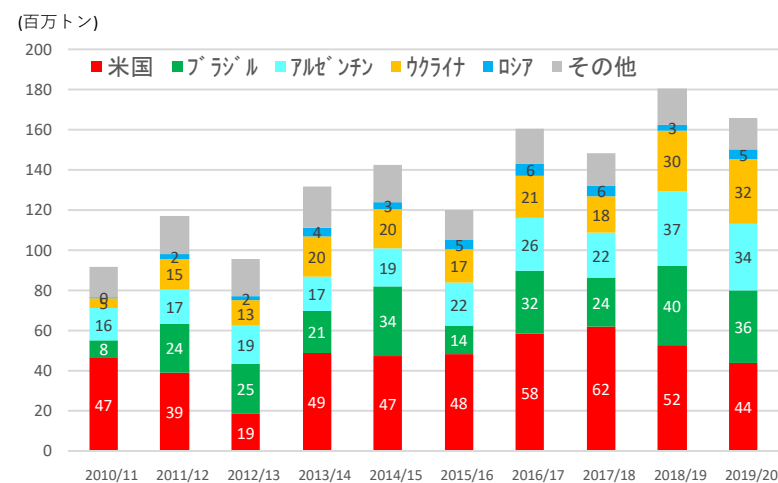
(単位:百万トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	82.0	101.0	101.0	(101.0)	-	-
消費量	63.5	67.0	67.0	(69.2)	0.5	-
うち飼料用	54.0	57.0	57.0	(53.5)	0.5	-
輸出量	24.2	39.8	36.0	(33.0)	-	▲ 9.4
輸入量	0.9	1.7	1.2	(1.3)	-	▲ 27.7
期末在庫量	9.3	5.2	4.4	(4.7)	0.1	▲ 15.4
期末在庫率	10.6%	4.9%	4.3%	(4.6%)	0.1	▲ 0.6
(参考)						
収穫面積(百万ha)	16.60	17.50	18.10	(17.81)	-	3.4
単収(t/ha)	4.94	5.77	5.58	(5.67)	-	▲ 3.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 March 2020)
IGC 「Grain Market Report」(27 February 2020)

図: 世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移

近年、米国のシェアが低下、ブラジルがシェアを拡大



資料: USDA 「PS&D」(2020.3.10)のデータをもとに農林水産省にて作成。

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】3月に入り、主産地のコルドバ州、サンタフェ州で高温と土壌水分不足に見舞われたが、3月中旬に降雨があったことで、生育はおおむね順調に推移。

ブエノスアイレス穀物取引所週報(2020.3.19)によれば、収穫率は13.6%。作付面積は、前年度並の6.3百万ヘクタール、生産量は50.0百万トン(前年度50.6百万トン)の見込み。なお、USDAによれば、2019/20年度の実生産量は、収穫面積が上方修正された一方、単収が下方修正されたため、前月予測から変更はなく、前年度比2.0%減の50.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、前年度比9.5%減の33.5百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2020年1月の輸出量は1.9百万トンで、前年同期の1.7倍。内訳は、1位がマレーシア37万トン、2位がペルー35万トン、3位がチリ24万トン。なお、フェルナンデス新政権は、財政赤字の補填等のため、2019年12月14日、とうもろこしの輸出税を約7%から12%へ引き上げた。

< 中国 >

【生育・生産状況】前年12月6日に公表された中国国家统计局のデータによれば、2018年と比較し、2019年は天候に恵まれ単収が史上最高の6.3トン/ヘクタールとなったことから、生産量は1.3%増の260.8百万トンの見込み。

【需給状況】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、前月予測から変更はなく、前年度比1.8%増の279.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】米中通商摩擦の影響から2018年7月から米国産とうもろこし輸入には25%の追加関税が賦課されていたが、中国財政部は、2020年2月18日、輸入業者向けに追加関税の免除措置の手続きを公表した。

中国の貿易統計によれば、2019年1～2月の輸入量は93万トンで、前年同期比で1.6倍。内訳は、ウクライナ産80万トン(86%)である。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報2月号」(2020.3.17)によると、新型コロナウイルス肺炎の流行、交通規制等の影響により、市場の取引量が少なかったことから国内流通価格は2月前半に大幅に上昇した。その後、落ち着いた。

とうもろこし—アルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	32.0	51.0	50.0 (53.1)	-	▲ 2.0
消費量	12.4	13.8	15.0 (21.9)	-	8.7
うち飼料用	8.5	9.7	10.3 (17.5)	-	6.2
輸 出 量	22.5	37.0	33.5 (31.5)	-	▲ 9.5
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	2.4	2.6	4.1 (4.4)	▲ 1.0	57.9
期末在庫率	6.9%	5.1%	8.5% (8.3%)	▲ 206.2%	3.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.20	6.10	6.20 (7.20)	0.10	1.6
単収(t/ha)	6.15	8.36	8.06 (7.37)	▲ 0.14	▲ 3.6

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 March 2020)
IGC 「Grain Market Report」(27 February 2020)

とうもろこし—中国

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	259.1	257.3	260.8 (260.8)	-	1.3
消費量	263.0	274.0	279.0 (282.9)	-	1.8
うち飼料用	187.0	191.0	190.0 (176.0)	-	▲ 0.5
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-
輸 入 量	3.5	4.5	7.0 (5.0)	-	56.3
期末在庫量	222.5	210.3	199.1 (187.3)	-	▲ 5.3
期末在庫率	84.6%	76.8%	71.3% (66.2%)	-	▲ 5.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	42.40	42.13	41.28 (41.28)	-	▲ 2.0
単収(t/ha)	6.11	6.11	6.32 (6.32)	-	3.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 March 2020)
IGC 「Grain Market Report」(27 February 2020)